

平成30年度 第1回 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター評価委員会会議録

日 時 平成30年7月3日（火）午後1時から午後4時まで

場 所 東金市役所 3階 第1委員会室

出席した委員

荒木 かすみ	九十九里町議会議員
飯田 加奈恵	城西国際大学水田記念図書館館長
岡田 就将	千葉県健康福祉部保健医療担当部長
寺口 恵子	公益社団法人千葉県看護協会会長
樋口 幸一	公認会計士
古川 洋一郎	山武郡市医師会副会長
松尾 晴介	千葉県病院局副病院局長
宮山 博	東金市議会議員
山本 修一	千葉大学医学部附属病院長 (敬称略、五十音順)

欠席した委員

佐野 勇一	株式会社ちばぎん総合研究所経営コンサル第一部部長
鈴木 紀彰	国保直営総合病院君津中央病院名誉院長 (敬称略、五十音順)

会議概要

1. 開会（午後1時） 司会 石渡医療担当部長
2. あいさつ 設立団体 鹿間市長、大矢町長
地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 増田理事長
3. 報 告
 - ・東千葉メディカルセンターの平成29年度に係る運営状況について
4. 議 事
 - ・第1号議案 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター
平成29事業年度に係る業務実績報告書に対する意見聴取について
 - ・第2号議案 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター
平成29年度財務諸表に対する意見聴取について
5. その他

○主な意見・質疑（概要）

議事1 平成29事業年度に係る業務実績報告書に対する意見聴取について

■第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

中項目1 救急医療

●救命救急センターとして、広域的に多数の重篤救急患者等を受け入れていることは評価できる。

中項目2 地域の中核病院として担うべき医療

(1)小児医療・小児救急医療

●評価4とした根拠は何か。実績が目標を上回っているのか。

⇒小児科の外来延べ患者数は、前年度実績と比較し600人程度増加している。入院患者は200人程度減少しているが、小児科医2人で対応していることや、症状により小児科以外の診療科で対応したことも減少した要因と捉えている。【宇野事務部長】

●外来でしっかり管理し、重症化を防ぐことで入院患者の減少を図っていることは評価できる。

(2)周産期医療

●この地域における年間の分娩件数をどの程度と見込んでいるのか。

⇒平成29年度のメディカルセンター周辺の自治体の出生数は1年間で682人であり、そのうちメディカルセンターの分娩件数は30%弱の199人であった。周知不足もあることから、今後も分娩件数の増加に努めていく。【宇野事務部長】

●分娩件数としてはまだ少なく、積極的な周知が望まれる。特にSNSなどによるクチコミも効果的であると考えるが、そのような取組みは行っているのか。

⇒ホームページやSNS等を通じて周知を図っていきたい。また食事内容等も改善を図っており、アンケートでも知人に勧めたいとの声もいただいている。今年度から産後ケア事業にも取り組んでおり、周知に力を入れたい。【宇野事務部長】

●医師確保等大変な部分もあるが、周産期医療を提供し、実績を上げている事に対して大変心強く思っている。今後も積極的な周知をお願いしたい。

(3)災害医療 特になし

(4)感染症医療 特になし

(5)急性期医療の効率化に必要な病棟運営

●逆紹介率が前年度実績を上回っており、着実な成果がでている。引き続き、地域医療機関と連携を密にし、患者に寄り添った退院支援等に取り組んでいただきたい。

中項目3 高度専門医療

(1)4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）への対応

●脳卒中の診療体制の充実が図られ、入院・外来患者ともに増加していることを含めての評価3は妥当。

(2)高度で専門性の高い医療 特になし

中項目4 安全・安心で信頼される医療

(1)医療安全対策の徹底

●感染管理認定看護師の専従配置が目標を上回ったことを理由に評価4としたのか伺いたい。

⇒計画には定めていなかったが、加算の取得に至ったことから評価4とした。【宇野事務部長】

●医療安全対策の向上が図られたかを評価するには、インシデントレポート数が前年度と比較して増えているのか比較しなければ、実際に改善されたか判断が難しいところである。

⇒昨年度は1,247件あり、全部門から適正に報告をさせ、情報共有を図っている。【宇野事務部長】

●研修の受講率についても数値化して示していただきたい。

⇒全職員を対象とした研修を年2回実施し、参加できなかった職員については、DVD視聴により100%に近い受講率となっている。【中鉢参事】

●感染管理の加算措置の取得による収益増に対する評価は、この項目の実績として評価するべきものではなく、評価3が妥当ではないか。

⇒加算措置の関係も含め自己評価4と判断した。【宇野事務部長】

●インシデントレポートなどにより改善が図られているのであれば良いが、比較がされておらず判断ができない。

●評価をするうえで実績を示す必要がある。次年度以降は対応していただきたい。

⇒今後は数値等をお示ししたい。【宇野事務部長】

(2)患者の視点に立った医療の実践

●患者、家族満足度調査の結果について、数値等による比較を示していただきたい。

⇒意見箱については、平成28年度の意見数は178件、平成29年度は213件である。意見に対して、早期に対応できるものについては取り組んでいる。【宇野事務部長】

●具体的な改善内容はどのようなものがあるのか。

⇒患者サービス向上委員会を中心に満足度調査を実施し、満足度の高い医療の提供に努めている。【宇野事務部長】

●患者満足度調査の結果やどのような改善を行ったか実績に記載すべきではないか。

⇒昨年度実施した調査では入院患者から55件、外来患者から644件の意見をいただいた。医療提供については、安心して治療を受けられる環境が整備されているとの評価をいただいた。医療ソーシャルワーカーの利用方法や相談コーナーの充実を求める声のほか、特に交通アクセスに対する意見が多い状況となっている。【宇野事務部長】

(3)医療の標準化と診療情報の分析

●治療期間短縮の具体的な実績を説明していただきたい。

⇒平均在院日数について、平成 28 年度は一般病床 10.9 日に対し、H29 年度は 10.6 日であり、クリニカルパスにより在院日数が減少したと捉えている。【宇野事務部長】

●D P C 導入による効果はどのようなものがあるのか。

⇒取得計数による診療報酬単価の上昇が期待できる。【宇野事務部長】

●医療機関別係数の状況について伺いたい。

⇒計画値 1.25 に対して、平成 30 年 6 月末時点で概ね 1.39 まで上昇している。【宇野事務部長】

●平均在院日数の比較だけでなく、D P C の計数Ⅱに何%の症例が入っているのかが重要になるので、今後の評価軸として示していただきたい。

(4)法令・行動規範の遵守（コンプライアンス） 特になし

中項目 5 患者・住民サービスの向上

(1)利用しやすい病院づくり

●評価 2 とした理由について伺いたい。

⇒アンケートでご指摘いただいた件について、対応に時間がかかっており、自己評価 2 と判断した。

【宇野事務部長】

●人員配置や I T 化で対応はできないのか。

⇒現在、ボランティアの活用を検討している。【宇野事務部長】

●大きな病院にかかったことがなく不慣れな方が多いので、温かみのある対応をお願いしたい。

●大きな病院のシステムがわからない患者さんも多く、声を掛けて案内することが重要である。受付業務をボランティアで行うことは不可能だが、院内の案内などで活用することは重要である。

●患者サービスは、病院にとって大変重要な部分であり、これが評価 2 ということは懸念すべきことであり、早急に改善が必要である。

(2)患者の待ち時間への配慮

●待ち時間はどの程度長いのか。

⇒自動支払機を導入したことで待ち時間の短縮は図られているが、会計等窓口が集中する時間帯もあり、不満につながっていると捉えている。【宇野事務部長】

●待ち時間もデータで示す必要がある。例えばどの過程で待ち時間が長いのか、受付から診察までなのか、検査から診察なのか、診察が終わってから会計までなのか、詳細な分析をしたほうが待ち時間短縮につながるのではないか。

⇒今後、数値化して分析したい。【宇野事務部長】

(3)患者・来院者の利便性への配慮

●送迎バスの運行について、議会においても議論されているが、どの様な検討がなされ、どうなっているのか伺いたい。現状の利便性を考えると評価 2 が妥当ではないか。

⇒地元企業より車両の寄贈をいただき、9 月に納車を予定している。ルートについては、設立団体や公共交通機関との兼ね合いもあり、担当部局と協議をしていく。【宇野事務部長】

●送迎バスについて、どの程度具体化しているのか。

⇒診察から薬をもらう時間を踏まえて、1日何便を走らせるか時刻表を検討する必要がある。【宇野事務部長】

●患者の送迎を病院として行うのは本来業務なのか。行政が行うべきなのか。

⇒患者送迎用の車両として頂いていることや、患者増への効果も期待できることから、病院として行っていきたい。センターの広報の効果もあり有効に活用したいと考えている。【宇野事務部長】

●人件費や車両の維持費もあり、現在の経営状況を踏まえると新たな負担は厳しいのではないか。

まずは公共交通機関の便数を増やすなどの対応をし、それでもカバーできない地域に対して送迎バスを活用することが望ましい。公的な病院で送迎バスをだしている病院は少ないことから十分検討したほうがよいのではないか。

⇒旭中央病院は、最寄り駅から運行している。今後、設立団体や公共交通機関と協議するうえで、バス路線が廃止になったところや、高齢化により自力で通院が難しい方への対応など、公的病院の使命も踏まえ検討したい。【宇野事務部長】

●地方の病院では交通アクセスがよくないところは、自治体がバスを走らせているケースはある。

病院が行うか行政が行うかは、今後協議をし、調整していただきたい。

(4)住民への保健医療情報の提供

●地域住民にとって大変貴重な取組であることから、引き続き積極的に情報提供を行っていただきたい。

(5)広報活動の充実 特になし

(6)職員の接遇向上

●研修の開催件数だけではなく、受講の実態や受講後の変化が重要な点であり、定量的に実施していただきたい。

中項目 6 地域医療への貢献

(1)地域医療機関等との連携推進 特になし

(2)保健福祉行政等との協力 特になし

(3)疾病予防の取り組み 特になし

中項目 7 メディカルセンターの段階的な診療科の開設と病棟の開棟

●病床の開床については、今後、地域のニーズや効率的な病院運営の観点を踏まえ、慎重に検討をお願いしたい。

●診療単価が下がった原因として重症患者が少なかったとの説明があったが、HCUの稼働率が7割以下であることから、HCUを8床にするなどの選択も考えられるのではないか。

⇒昨年度は麻酔科医が少なかったこともあり、手術件数が少なかった状況がある。今年度は麻酔科

医も増員しており、この5月の手術件数は197件、6月も198件行っており、手術数の増加により診療報酬も増加するものと捉えている。【宇野事務部長】

●今年度のHCUの稼働率は上がっているのか。

⇒上がっている状況にある。【宇野事務部長】

■第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

中項目1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備

(1)効率的かつ効果的な業務運営体制の整備

●運営会議等における報告と運営状況の説明会は別なものと捉えてよいのか。

⇒運営会議は各診療科の長が出席するものであり、運営状況については職員個々に対して別途説明会を実施している。【宇野事務部長】

(2)人員配置の弾力的運用

●評価2とした根拠は、時間外勤務の増加と考えられるが、患者数増加に対応した人員配置の見直しは行われたのか。

⇒人員配置等の見直しといった対応ができなかった。【宇野事務部長】

●入院・外来患者ともに増加しているが、コメディカルなどはフルオープンを前提とした人員配置をしており、100床あたりのスタッフ数は決して少なくない。人件費率も上昇しており、患者が増えただけでなぜ22%も増加したのか、要因を職種別でしっかり分析することが重要である。

⇒職種別で見ると医師が全体の35%、看護部が29%、事務部で16%となっている。今後はご指摘の通りコメディカルなどの運用を検討したい。なお、昨年度事務部において、医療事務や清掃業務を業務委託から内製化に切り替えたことも影響している。また、時間外の手術が多かったが麻酔科医の増員により、今年度は定時内での手術を実施しており、改善が図られている。【宇野事務部長】

●医師の時間外の割合が高いとのことだが、内容は診察なのかそれとも紹介状などの書類業務なのか伺いたい。

⇒両方の要素がある。医師に関わる様々な会議もあることから、できる限り簡潔になるよう努めていきたい。【宇野事務部長】

(3)人事評価制度の導入

●医師の評価が難しいことは理解できる。

(4)外部評価

●専門家の活用実績について伺いたい。

⇒昨年度、病院運営検討会議を5回開催し、設立団体のほか千葉県、千葉大学医学部附属病院、有識者などから様々な意見を頂戴した。【宇野事務部長】

中項目2 人材の確保

(1)千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センターとの連携 特になし

(2)医師の確保 特になし

(3)看護師の確保

●評価4とした根拠について、説明会の実績、看護師数、定着率も概ね目標どおりであり、他の事由があれば説明していただきたい。

⇒看護師確保が順調に進んだことから、4月の開床を10床からさらに8床増やし18床としたことから自己評価4と判断した。【石原看護部長】

●看護師養成の補助金は、今後も継続していくのか、必要性をどのように捉えているか。

⇒病棟の規模により看護師数は左右されることから、今後の看護師の充足状況を踏まえながら検討していきたい。補助金は看護師確保の重要なツールであるとは認識している。【宇野事務部長】

⇒設立団体としても修学資金を貸し付けているが、返還の免除要件の4年経過後の状況も踏まえたなかで、現状は継続していくことを前提に考えている。【石渡医療担当部長】

●看護師定着率89%は良い方なのか。他の病院と比較してどうなのか伺いたい。

⇒日本看護協会による平均離職率は11%、新人が1年以内に離職する率が7%であり、昨年度新人で退職する者はいなかった。【石原看護部長】

●奨学金があることでメディカルセンターに就職する看護師が多いことから、制度がなくなってしまふと看護師確保が難しくなってしまうのではないか。大学としても学生を集める原動力となっていることから、今後も継続していただきたい。

中項目3 人材育成 特になし

中項目4 働きやすい職場環境の整備

●医師事務作業補助者の加算や急性期の夜間看護補助者の体制はどのようになっているのか。

⇒医師事務については、30対1から20対1に変更した。急性期に対する加算は50対1のままである。【宇野事務部長】

中項目5 職員給与の原則

●評価2とした根拠について、給与比率は収益の増減にも左右されるところであり、制度見直しの実績はどうだったのか伺いたい。

⇒事務職員を内製化したことが、給与費増につながってしまった。【宇野事務部長】

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

中項目1 健全な経営基盤の確立

(1)健全な経営基盤の確立 特になし

(2)経営情報システムの整備 特になし

中項目 2 収益の確保と費用の合理化

(1)収益の確保 特になし

(2)費用の合理化 特になし

第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

中項目 1 財政負担の原則【※評価対象外】

中項目 2 地域に対する広報

- フェイスブックなども更新しており、評価 4 としたい。

中項目 3 ボランティアとの協働 特になし

1 号議案採決

第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価 3）

- ・ 1 救急医療について、評価 3 に決定
- ・ 2 地域の中核病院として担うべき医療について、評価 4 に決定
- ・ 3 高度の専門医療について、評価 3 に決定
- ・ 4 安全・安心で信頼される医療について、評価 3 に決定
- ・ 5 患者・住民サービスの向上について、評価 3 に決定
- ・ 6 地域医療への貢献について、評価 3 に決定
- ・ 7 メディカルセンターの段階的な診療科の開設と病棟の開設について、評価 3 に決定

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価 3）

- ・ 1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備について、評価 3 に決定
- ・ 2 人材の確保について、評価 3 に決定
- ・ 3 人材の育成について、評価 3 に決定
- ・ 4 働きやすい職場環境の整備について、評価 3 に決定
- ・ 5 職員給与の原則について、評価 2 に決定

第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価 2）

- ・ 1 健全な経営基盤の確立について、評価 2 に決定
- ・ 2 収益の確保と費用の合理化について、評価 2 に決定

第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置（大項目評価 3）

- ・ 1 財政負担の原則について 【評価対象外】

- ・ 2 地域に対する広報について、評価 4 に決定
- ・ 3 ボランティアとの協働について、評価 3 に決定

全体評価

- ・ 大項目別の評価を踏まえ、評価 C 「計画をやや下回り、若しくは計画よりもやや遅れていると認められる。」に決定
- 着実に取組まれている部分も多く、第 3 期中期計画の達成に向け、法人・設立団体ともに一丸となって経営健全化に向けて努力していただきたい。

議事 2 平成 29 年度財務諸表に対する意見聴取について

確認内容

1. 合規性の遵守について
 - ・ 特になし
2. 表示内容の適正性
 - ・ 特になし

第 2 号議案採決

合規性の遵守、表示内容の適正性について、いずれも要件を満たしており、平成 29 年度財務諸表については承認することが適当である旨、評価委員会としての意見書を作成することとする。

なお、監事の監査報告書において指摘されている債務超過を解消するための対応策や累積損失を解消するための資本金の増強について、早急に法人の経営改善を行うことが必要である。

⇒委員了承